個人13

受付	令和 6 年 6 月 4 日 (午前)・午後 10 時 02 分

一般質問（代表・(個人)）通告書

令和６年６月４日

尾張旭市議会議長　殿

氏　名　芦原　美佳子

尾張旭市議会会議規則第５０条第１項の規定により６月定例会において別紙のとおり質問したいので通知します。

なお、質問事項の件数及び質問方法は、下記のとおりです。

記

1　質問事項　　3件

2　質問方法

	１回目　一括質問、一括答弁 再質問以降　質問事項（大項目）ごとに一問一答
○	１回目から　質問事項（大項目）ごとに一問一答

選択する方法に○を付す。

尾張旭市議会 受付 6.6.4 第一号

別紙　　氏　名　芦原　美佳子

質　問　事　項 No.　1	難聴で困らないための環境整備について
要 旨	高齢化の進展に伴い、加齢性難聴の方も年々増加しています。難聴は認知症の危険因子の一つとも言われており、人や社会とのコミュニケーションを避けがちになり、社会的に孤立する可能性も懸念されます。耳が聞こえづらい高齢者等と窓口でのコミュニケーションを円滑にするため、軟骨伝導イヤホンを導入している自治体が少しずつ増えています。庁舎等の窓口への設置や今後の取組について、以下伺います。 （1）「聞こえ」でお困りの市民への窓口対応について 本市の庁舎窓口では、耳が聞こえづらい市民に対してどのような対応をされてきたのか、これまでの対応について伺います。 （2）軟骨伝導イヤホンについて 難聴対策として、気導補聴器や骨伝導補聴器が用いられてきました。近年、これらの補聴器に加えて、耳の軟骨を振動させて音を伝える「軟骨伝導イヤホン」が注目されています。従来の気導・骨導補聴器では十分な補聴効果が得られない方などに対しての新たな選択肢となっています。また、耳が聞こえづらい高齢者等と窓口でのコミュニケーションを円滑にするため、軟骨伝導イヤホンを導入している自治体が少しずつ増えています。 「聞こえ」でお困りの高齢者や難聴者が、安心して庁舎窓口でのコミュニケーションをとるため、軟骨伝導イヤホンの設置を提案したいと考えますが、見解を伺います。 （3）聴覚補助機器等の活用促進について 認知症の予防と共に、高齢者の積極的な社会参画を実現するために、聞こえでお困りの方に対し、聴覚補助機器等の積極的な活用が必要と考えます。本市の見解および、取組について伺います。

※　申し合わせ事項に留意する。

別紙　　氏　名　芦原　美佳子

質　問　事　項 No.　2	風水害対策について
要 旨	近年、異常気象による豪雨災害が頻発化しています。今後、地球温暖化等の気候変動の影響により、世界的に異常気象が増加することが指摘されています。本市は、比較的災害に強いまちと言われていますが、私たちの地域においても、異常気象による災害が発生する確率は年々増していると言えます。災害対応力を強化するために、ハード・ソフト両方の対策が必要ですが、今回はソフト面に焦点を当てて質問いたします。 （1）本市の取組について 本市では、風水害対策としてどのようなことに取り組まれているのでしょうか？現状について伺います。 （2）課題と今後の対策について これまで風水害対策として様々な取組を進めてこられましたが、課題と今後の対策について伺います。 （3）気象庁からの支援について 各地の気象台では、自治体や関係機関と一体となって、地域の気象防災力の向上を図るため、平時や緊急時において、自治体の災害対応を支援する様々な取組を進めていますが、気象庁から本市への支援について伺います。 （4）気象防災アドバイザーの活用について 異常気象による災害を事前に予測して、適切に対応することにより地域住民の生命や暮らしを守ることは、自治体の大きな使命です。災害時における自治体の判断は被害の大小を左右する大変重要なものであり、専門人材が不足する中で、気象の専門家である気象防災アドバイザーを採用している自治体が少しずつ増えています。 災害対応力を強化するための気象防災アドバイザーの活用について見解を伺います。

※　申し合わせ事項に留意する。

別紙　　氏　名　芦原　美佳子

質　問　事　項 No.　3	フェーズフリー防災について
要旨	我が国は、世界でも有数の災害大国であり、激甚化頻発化する災害に対する防災意識は高まっていますが、一方で「いつ起こるか分からない防災にコストをかけられない…」という声も、いまだ多く聞かれます。フェーズフリーは、そのような背景から生まれた発想で、身の回りにあるモノやサービスを、日常時はもちろん、非常時にも役立てることができるという考え方です。防災用品はほとんどの場合、ふだんはしまっていて、非常時のみに取り出して使用するものです。しかしフェーズフリー品は、日常時の生活で便利に活用できるのはもちろん、非常時の際にも役立てることができます。本市の防災力の向上に向けて、以下の点について見解を伺います。 （1）フェーズフリー防災の認識と取組について フェーズフリー防災の認識と本市での取組について伺います。 （2）今後の推進について 令和５年度の総合防災訓練においても、フェーズフリーでもある「太陽光で発電・蓄電・給電が可能な移動型独立電源付きペットと避難する防災拠点施設」や給電活動車両などの展示が行われていました。全国では、フェーズフリーの概念を具現化したごみ処理施設や公園内の民間運営によるカフェ、消防署庁舎なども登場しています。またフェーズフリーな商品やサービスも数多く存在しています。そこで、備えていない市民も巻き込むために、フェーズフリー防災の活用や周知啓発、アイデア募集などを取り組むことも、地域防災力の向上につながるのではと考えます。今後の取組、推進についてお考えを伺います。

※　申し合わせ事項に留意する。